

**製品名: p21 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe21528**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	人間、ネズミ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:18kD;Observed MW:18kD

**抗原情報**

遺伝子名	CDKN1A
別名	Cyclin-dependent kinase inhibitor 1;CDK-interacting protein 1;Melanoma differentiation-associated protein 6;MDA-6;p21;
遺伝子 ID	1026.0
SwissProt ID	P38936
免疫原	ヒト p21 の合成ペプチド

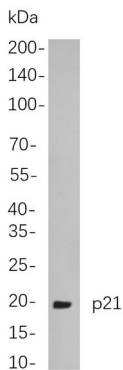
**背景**

細胞局在: 核。この遺伝子は強力なサイクリン依存性キナーゼ阻害因子をコードしている。コードされているタンパク質は、サイク

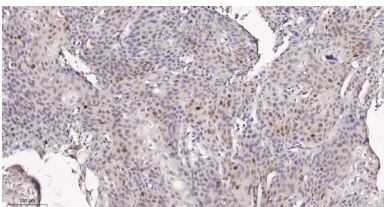
リン-サイクリン依存性キナーゼ 2 またはサイクリン-サイクリン依存性キナーゼ 4 複合体に結合してその活性を阻害し、細胞周期 G1 期の進行を調節する因子として機能する。この遺伝子の発現は腫瘍抑制タンパク質 p53 によって厳密に制御されており、p53 を介して、様々なストレス刺激にตอบสนองして p53 依存性細胞周期 G1 期停止を誘導する。このタンパク質は、DNA ポリメラーゼ補助因子である増殖細胞核抗原と相互作用し、S 期 DNA 複製および DNA 損傷修復において調節的役割を果たす。このタンパク質は CASP3 様カスパーゼによって特異的に切断されることが報告されており、その結果、サイクリン依存性キナーゼ 2 が劇的に活性化され、カスパーゼ活性化後のアポトーシス遂行に重要な役割を果たす可能性がある。この遺伝子を欠損したマウスは、損傷した組織または欠損した組織を再生する能力を有する。この遺伝子には複数の選択的スプライシング変異体が見ついている。[RefSeq 提供、2015 年 9 月]

## 研究分野

## 画像データ



HCT-116 細胞のライセートのウェスタンブロット解析 (p21 ウサギ mAb を使用)。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を使用した。



パラフィン包埋ヒト子宮頸癌組織の免疫組織化学分析。1、p21 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈した (4°C、一晚)。2、抗体の回復には EDTA pH 9.0 を使用した (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。